



# 大分県 現代俳句協会 会報

第119号

令和2年5月25日

## 現代俳句歳時記 【蛍袋（ホタルブクロ）】

提燈花、釣鐘草とも呼ばれる。名前は子どもが蛍を入れて遊んだことに由来する。キキョウ科の多年草。初夏に大きな釣り鐘状の花を咲かせる。掲句は第51回九州俳句大会の大会賞（第一席）

ほたるぶくろから産声が漏れている

木村直子

会報一八号で県内外に案内した大分県現代俳句協会創立30周年記念行事は、予定通り3月1日（日）、大分市センチュリーホテルで開催されました。記念行事は、第30回大分県現代俳句協会総会、30周年記念大分直現代俳句大会、30周年祝賀会の三部門で構成されています。

### 大分県現代俳句協会創立30周年記念行事

## 中村本部長招き決意新た コロナ禍のもと、第一歩を踏み出す

運動方針、家族会員規定新設、役員改選人事等が議論され、原案通り可決しました。（2〜3面）また、年間一句賞の表彰のあと（3〜4面）、第22回大分県現代俳句賞の顕彰が行われ、菅攝子氏、田口辰郎氏の二名受賞が報告されました。（5面）

午後からの記念大会では、協会創立以来30年にあたり特に業績のあった河野輝暉元会長（現顧問）に感謝状と記念品を贈りました。（14面）

つづいて東京から駆けつけた中村和弘現代俳句協会会長が「新興俳句のいま」と題した講演を行いました。（11面）

そのあと大会は事前投句の中から成績優秀者を顕彰する表彰式に移り、大会大賞の河野輝暉氏、ジュニア大賞の高悠介さんほか、全部で69名を表彰しました。（12〜14面）

会場を移して開かれた祝賀会を含め、のべ68人の協会員と応援者が参加し、創立30周年にふさわしい決意のみなぐる記念行事となりました。



## 祝30周年 新しい峰を目指して

### 第30回大分県現代俳句協会総会

大分県現代俳句協会は、俳句を楽  
しみたい、俳句がうまくなりたいと  
いう人を結集する組織ですが、単に  
自分だけが楽しめばいい、上達すれ  
ばよいというものではありません。

私たちは生まれたときから俳句が好  
きたわけではなく、人生のどこ  
かで俳句に接した機会があったはず  
です。俳句文化が継承されていなか  
れば、私たちは俳句を知らないまま  
でした。

今、その俳句文化が存亡の危機に  
直面しています。表面的な「俳句ブー  
ム」の影で、県協会の会員数は最盛  
期（約10年前、河野輝暉会長当時）  
から半分を大きく切るところまで減  
少しました。今では宅配便業者の  
「メール便取り扱い要件」にある最  
低宅配部数（年間約千二百部以上）  
も満たせず、割高な定形外郵便の使  
用を余儀なくされています。

平成30年、第28回総会で選出され  
た有村王志会長以下の現執行部は、  
この現状を打開するために、協会運  
営の舵を大きく切り替えてきました。  
会員のみなさんに、これまで何度と  
なく訴えてきた、

- ・協会を大きくしよう！
- ・協会の影響力を高めよう！
- ……というスローガンはここから  
生まれました。

協会を大きくするには会員獲得を  
目的意識的に行う必要がありますが、  
そもそも協会に魅力がなければ、誰  
も入会しません。他人を勧誘するた  
めには、自分にとっても楽しい協会  
でなければなりません。楽しい協会  
を作るためには新しい協会運営をす  
る必要があります。活動の場、活躍の場  
を外に向かつて開く必要があります。

このように二つのスローガンは幾  
重にもリンクしている県協会の車輪  
です。現執行部のこれまでの二年間  
は、協会再生、県俳句文化再生の、  
いわば種まきの期間でした。この種  
まきの期間も、会報誌面の改革（会  
員のための会報に徹する）、会報  
の新設、「大分県現代俳句協会賞」  
の7年ぶりの復活、吟行大会の4年  
ぶりの復活、幹事会の定例化……な  
ど多くのことを達成してきました。  
会員数も新執行部発足時からプラス  
に転じはじめ、この2年間で3割以  
上の会員を協会に迎えることができ



ました。会員の方の英雄的な奮闘に、深く感謝しています。

第30回総会は、このような情勢の中で開会されました。総会、大会、祝賀会を一日で終わらせるため、約二時間というきびしい時間的制約がありました。総会で議長に選ばれた田代直之幹事が、スムーズな議事運営でこれを達成しました。

事業報告、会計報告、活動方針が事務局から提案され、討議の結果原案通りに可決されました。(吟行俳句大会を日田で6月〜7月に開催する計画でしたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言があり、予定通りの実行を断念しました。このほ

かにも、公共施設 市内公民館の開鎖などで、幹事会が開会できない状況が続いています)

役員改選では、現役員全員の留年が承認されました。

会長 有村 王志  
副会長 あべまさる

## 第30回記念総会

第30回記念総会では令和元年度の年間一句賞の表彰が行われました。年間一句賞は、二回の雑誌句会作品各3句、一回の自薦句4句の計10句を対象に、特別選者が発表された全句の中から推薦句を一句ずつ決定し

同 上田たかし  
同 瀬川 剛一  
幹事長兼事務局長 足立 攝

幹事 白水 風子  
同 井元 扇岳  
同 田中 充  
同 田代 直之

同 菅 登喜子  
同 菅 勲  
同 久枝 花城  
顧問 成清 正之  
同 河野 輝暉  
同 万葉 太郎  
同 谷川 彰啓

## 令和元年度〈年間一句賞〉表彰

次の総会で表彰するものです。平成21年度まで実施した県協会の「年間賞」を、現代俳句の多様性が生かされるよう、現在の形に改めました。

今回の選者は、前回総会で決定した有村王志会長、成清正之顧問、河野輝暉顧問、万葉太郎顧問、谷川彰啓顧問の5人の予定でしたが、万葉太郎顧問が辞退されました。

【年間一句賞 成清正之 推薦】  
生者みな風の出口を向いて秋

田口 辰郎

俳句の作り方面白い方はいろいろあるが、私は大別して二通りを想定している。

一つは、既成概念から離れた新しい感覚の自由な発想の今日的技法。もう一つは既存の規範に準じた実感描写の季語定型遵守の手法。

【年間一句賞 有村 王志 推薦】  
恙なく老いて歩けぬ捨て案山子

あべまさる

高齢化はいよいよ進み、俳句の世界でもそれに対応する作品が多く生まれている。例えば、加齢、余生、余命、晩年、晩節などといった措辞である。掲句はまさに、その渦中にある。老境の己の姿と対峙して具現したもので、しみじみとした哀歎

この二つを素材に応じて使い分けしているといつてよい。掲句はその二つの手法をうまく癒合させた作品として推挙した。

台風による風水害で、家も畑も流失し呆然と立ち尽くしている被災者の一群が描写されている。この作品

## 家族会員、学生会員等の入会規定を新設

第30回記念総会では、家族会員、学生会員等の入会規定、会費規定が設けられました。会員拡大、若返りなど会の活力を生み出すため、長期的展望に立った措置です。

・学生会員(小、中、高、大学、専門学校など収入のない会員)は会費を免除する  
・家族会員(夫婦、親子など同一所

帯に複数の会員がいる場合)は、二人目からは会費を半額にする  
・会員が災害や病気、事故、その他の事情で生活困窮に陥った場合、会長が必要と認めたときには会費を減額または免除される  
・この規定は総会で承認され、効力を発揮したときから実施される。(過去にさかのぼっては適用されない)

【年間一句賞 河野輝暉推薦】  
田を植えて直会の膳村生きる

村上鬼城の代表句「生きかはり死にかはりして打つ田かな」を想起させ、日本民族古来からのいのちきを両句共描いて鮮明。「過疎の村」と縛られず、前向な「まくり」の現実もある事を指摘。「さなぼり」「なおり」等、豊作祈願を神に念じ、近隣との会食の楽しさ、睦まじさが素朴に映像化され、秀句。

【年間一句賞】谷川 彰啓 推薦  
行くあてのなき汚染水鴟猛る

田中 充

東日本大震災で炉心溶融を起こした福島第一原子力発電所の汚染水の処理。一日何万トンと出てくる汚染水をドラム缶で保管しているが、その保管が困難になって来ていると新聞で報道された。汚染の濃度による海への投棄の判断は難しい。そのジレンマを「鴟猛る」と厳しい現実を突きつけた鋭い作品。

この俳句は、友人が感想を求めた一句である。私は一読して不謹慎にも吹き出しそうになった。人の死を茶化す事は、もとより鬻盛を買いださう。笑い事でないことぐらいは分かっている。仏教の四苦の悲哀が深く隠されているとの直感あつて

のことだ。  
特に高齢者  
は、永年の  
病苦でなく、  
安楽に死に

寄稿

『俳句  
志村

『俳句と川柳』  
志村さんの逝

河野 輝暉

紅葉散る煩惱去つて認知症

誰の句か忘れたが、当地の老人クラブで誕生該当月の者が祝福されて挨拶させられた際、私が引用

(詩的混沌)の無い句はつまらないと思う」とあつた。この見方は俳句にも川柳にも、詩にも小説にまで共通して魅力を發揮しているのではないか。「川柳と俳句は一卵性双生児」と斎藤大雄氏は言つた。引用の俳句も川柳の三要素「可笑み」「穿ち」を包含している。川柳にも社会性の強い作品が注目される。

手と足をもいだ丸太にしてかえし

作者は鶴彬の代表句。氏は治安維持法違反により獄中死。俳句での京大事件を想起される。俳句以前に川柳をしていた人の方に諧謔と人の機微がある。「川柳と俳句は一卵性双生児」と斎藤大雄氏は言う。今回の国民的芸人の逝去は、俳句

去は、俳句

の一句を巡って  
様々な人間模様  
を展開してくれた。

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing gold-rimmed glasses, a white shirt, a red and blue patterned tie, and a dark suit jacket. He is looking slightly to the right with a neutral expression. The background is a plain, light color.

(具協公協顧問)



第22回 大分県現代俳句協会賞

菅 攝子氏「厠の神」・田口辰郎氏「残照の舟」  
奨励賞に足立町子氏「風邪ごこち」・松廣李子氏「風の色」

厠の神

菅 攝子

花殻を摘めば男の月涼し  
神棚に立秋の水おどりけり  
生姜湯や臍に明かりの日本人  
塗りたての空連れ曼珠沙華を歩く  
雲を洩れ仏を愛す神楽笛  
麦踏みば雲甘くなる少年期  
絹鳴りの天地に若し阿波踊り  
花葱やはちきれそうな母の恩  
亀鳴くやくるぶし乾きゆく墓前  
今年米神の音して袋立つ  
抜歯して魂のなき秋簾  
かなぶんの夜は美しき家族かな  
竹炭の神来て刻を見ていたり  
産土は風までほとけ春の蝶  
白魚の散つて遙かや父の文字  
河原鵜とろりと鳴かせ農暦  
柿熟れて目輪みがく平和主義  
忘れ音の語れば生まる産山河  
学問の眉こそばゆき雲の峰  
花石路や厠に神のありどころ

残照の舟

田口 辰郎

ランドセルに平和を詰めて入学す  
春菊の春のところを摘みにゆく  
目貼剥ぐ老いの孤独を剥ぐように  
耕やして村の扉を開けておく  
春の雲手を差しのとてくれないか  
朧夜の夜行列車でくる昭和  
ものの芽の悲しいところを切つてやる  
晩年を陽炎ばかりがついて来る  
これ以上漕いだら春を飛び越える  
初蝶が来るから空をあけておく  
ふりむけば枯野となつて地球  
黄昏のころに少しオーデコロン  
八月を祈る両手が剥がれない  
紙魚だらけ付箋だらけの原爆史  
いま母は銀河の父へ辿り着く  
月光に刺されてからの不眠症  
合鍵はシリアの月にかけてある  
後書もないまま枯れてゆくのかな  
戦争が鍵穴覗いている聖夜  
篝火の消えた母郷の海に冬

《選考経過》

再開二回目となる第22回大分県現代俳句賞は、締切の10月17日（木）

まで6名の作品が寄せられました。前回は12名の応募がありましたので、ちょうど半分に当たります。これは直前に県協会が全面的にバックアップする九州俳句大会in大分、および県協会主催の三重町吟行大会があり、その準備と運営で協会賞へと会員の関心が向かなかつたことが原因だと思われます。

通常であれば、締切を延ばすなどして追加応募を呼びかけるところですが、作品の質が比較的高く、意欲的な作品が多かつたため、今回はこの6名で応募を締め切ることになりました。2名を除く全員が初応募というのも今回の特徴でした。

作品は、文字の読みやすさ等の条件を平等にするために活字化し、応募順に並べて、かつ作者名を伏せた状態で総会で信任された各選者に送りましました。各選者は手くのボランティア

|       |       |       |       | 選 考 委 員 |       |       |       |        |        |       |       | 合 計 点 | 賞   |
|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-----|
| 順 位   | 応募 番号 | タイトル  | 作 者   | 有村 王志   | 成清 正之 | 河野 輝暉 | 谷川 彰啓 | あべ まさる | 上田 たかし | 白水 風子 | 伊藤 利恵 |       |     |
| 1     | 1     | 厠の神   | 菅 攝子  | 4       | 1     | 5     | 2     | 5      | 4      | 5     | 5     | 31    | 協会賞 |
| 2     | 2     | 残照の舟  | 田口 辰郎 | 4       | 4     | 3     | 5     | 4      | 4      | 4     | 1     | 29    | 協会賞 |
| 3     | 4     | 風邪ごこち | 足立 町子 | 4       | 4     |       | 3     | 3      | 4      | 1     | 4     | 23    | 奨励賞 |
| 4     | 3     | 風の色   | 松廣 李子 | 1       | 4     | 2     |       | 2      | 2      | 3     | 2     | 16    | 奨励賞 |
|       | 5     | 風     | 御手洗豊海 |         | 2     | 4     | 4     |        |        | 2     |       | 12    |     |
|       | 6     | 螺旋階段  | えんど久子 | 2       |       | 1     | 1     | 1      | 1      |       | 3     | 9     |     |
|       |       |       |       |         |       |       |       |        |        |       |       |       |     |
|       |       |       |       |         |       |       |       |        |        |       |       |       |     |
| 合 計 点 |       |       |       | 15      | 15    | 15    | 15    | 15     | 15     | 15    | 15    | 120   |     |

アで真剣に選考にあたりました。

選者からは、表記についての問い合わせや、ほかの大会等ですでに評価を得ている作品の取り扱い、応募規定に違反した個別の作品をどうするかなどの問い合わせがあり、その都度選考委員長である有村王志会長と相談しました。

その結果①協会賞の第一の目的は、協会の目指す俳句がどういうものであるかを内外に示すこと、②応募



募者の成長に寄与すること、③前例と比べて不利や有利にならないこと、④応募規定に準拠すること、⑤それぞれの判断は基本的に各選者にゆだねること、という5点を確認しました。今後は応募規定をより厳密にしていこう方向です。

以上を考慮し最終的に表で示した選考結果を得て、各選者と協議の上、協会賞2名、奨励賞2名という、少

数応募者にしては異例の複数受賞が決定しました。

今回の協会賞の2名の作風は対極にあると言えるほどに異なり、この2名が同時受賞することは、大分県現代俳句協会の持つ多様性を端的に示すことになりました。

また、奨励賞の2名も同様で、かつ新人としての瑞々しさを感ぜさせます。

## 第22回大分県現代俳句協会賞を受賞して

### 【受賞の言葉】

菅 攝子

大分県現代俳句協会創立30周年おめでとございます。

第22回の協会賞を頂戴し、身に余る光栄です。こ



れも諸先生方のご指導のたまものと心より感謝申し上げます。

俳歴も20年。振り返れば色々な出来事があり、それは幸せの記録です。これからも一日一笑一句、俳句を友に挑戦と冒険を忘れず、心豊か

に余生を送ってまいります。

不安な報道で気持ちも沈みがちな今日この頃ですが、春光を浴び、穏やかな日常を取り戻す日を待ちわびております。

本当にありがとうございます。

### 【受賞の言葉】

田口 辰郎

未曾有の事態となった新型コロナウイルスで、世界がゴーストタウン化している大変なこの三月一日に、大分県現代俳句協会三十周年記念の大会が無事終了することができて、一会員として心より安堵していると



ころです。今さらですが事務局は大変なご苦労であつただろうと推察しています。

大会に先立つて行われた総会では、第二十二回大分県現代俳句協会賞が発表され、菅攝子さんと私が受賞の栄誉を賜りました。句歴十年目となる私にとって記念となる賞で、この十年間御指導いただいた、成清正之先生、副会長の瀬川剛一さん、事務局長の足立攝さん、ほか大分句会の

## 県協会賞「奨励賞」受賞作品

### 『風邪いいち』

足立 町子

無花果を食べ直感が鈍くなる  
一つの世も女は女風邪心地  
重心が空へ傾く春炬燵  
桜はらはら甘え上手になっている  
今日わたし何だか無敵揚げとまと  
線香花火消えて女の手が残る  
父の背にかなかなのいる夕間暮れ  
棄て易きものに芒と妻の意地

(編集部抄出)

### 『風の色』

松廣 李子

春浅し椿子人形の目の澄めり  
「癌です」と人ごとのやう燕来し  
いい訳は風に転がり墨染坊主  
夏越祭水のごとくの素拍子  
母の色いま加はらん葬の虹  
白桃や眠ていることの飽きだして  
焼き上る陶は金彩竜田姫  
風に聞く怒涛ラグビーかもしれぬ

(編集部抄出)

# 第22回大分県現代俳句協会賞・各選考委員選評

選考委員の選評を掲載します。今回から伊藤利恵さんが新しく選者に加わりました。また、万葉太郎さんが選者を辞退しました。評中の作者名は、掲載にあたって事務局で書き入れました。

## 「廁の神」を推す

あべまさる

一位 廁の神 菅 攝子

塗りたての空連れ曼珠沙華を歩く  
亀鳴くやくるぶし乾きゆく墓前  
かなぶんの夜は美しき家族かな  
竹炭の神来て刻を見ていたり

花石路や廁に神のありどころ

「トイレの神様」とかの歌があつたが、先ずタイトルに注目した。日本人として神・仏・家族の関わりぶりをうまく表現して、全体的に纏まつた句が並び、好感のもてる充実した作品と思う。(配点五点)

二位 残照の舟 田口 辰郎

目貼剥く老いの孤独を剥ぐように  
朧夜の夜行列車てくる昭和  
八月を祈る両手が剥がれない  
月光に刺されてからの不眠症  
後書もないまま枯れてゆくのかな

昭和生まれの作者の人生観がよく出ていて大らかな把握の物語である。一位と二位の差はつけ難く、ただ過去に評価のあった作品に頼る一面を感じた。(配点四点)

三位 風邪ごち 足立 町子

無花果を食べ直感が鈍くなる  
いつの世も女は女風邪ごち

男女差を隠したままの雪たるま  
暮れの春ときおり神を担ぎ出す  
棄て易きものに芒と妻の意地  
季語の効いている作品が多く、女性  
性の生活ぶりが目に浮かぶ。その心  
情が言い得て妙。又、表現が手堅く  
安定感がある。(配点三点)

## 意欲的な作品群

今回は六作品の応募であつたが、少数精鋭で、意欲的な作品群の選考に力が入った。

選考にあたっては、今日性を加味した意欲的で新しい試みが少しでも感じられること。そして言葉にリアリティがあり、発想の良さが感じられる作品を選出した。

一位 残照の舟 田口 辰郎

目貼剥く老いの孤独を剥ぐように  
ものの芽の悲しいとろろを切つてやる  
晩年を陽炎はかりがついて来る  
紙魚だらけ附箋だらけの原爆史

四位 風の色 松廣 李子

灰色は春色めいてやや憂鬱  
ねころへはみすずの詩が夏の草

大棚田ゆるし色なる大夕焼

タイトルにこだわった作品に纏めていて、柔らかな感じがよかった。

五位 螺旋階段 えんど久子

枯梗揺れきよの私をはぐらかす  
厳冬の螺旋階段よりワルツ

マイク握るその手の先の冬の梅

日常生活を日記に書いた雰囲気が充分出ていて意欲を感じた。(配点一点)

## 谷川 彰啓

月光に刺されてからの不眠症

二位 風 御手洗豊海

飯の世を生きて見送る花筏  
肩書は無用花野の風となる

蛭狩り竹馬の友は闇の中

田を植えて村はひとつの大鏡  
生も死も天にまかせて冬の蝶

三位 風邪ごち 足立 町子

無花果を食べ直感が鈍くなる  
春分の日ばざ波になつている  
線香花火消えて女の手が残る



協会賞授賞式

父の背にかなかなのいる夕間暮れ

(配点二点)

四位 厩の神 菅 攝子

麦踏みば雲甘くなる少年期

絹鳴りの天地に若し阿波踊り

産土は風までほとけ春の蝶

五位 螺旋階段 えんど久子

靴紐をギョツと結んで秋の尾瀬

如月の露天湯に身を解き放つ

(配点一点)

## 新鮮な作品群

### 白水 風子

一位 残照の舟 田口 辰郎

目貼剥く老いの孤独を剥ぐように

耕して村の扉を開けておく

八月を祈る両手が剥がれない

紙魚だらけ附箋だらけの原爆史

篝火の消えた母郷の海に冬

二十句共に心惹かれる句がそろっている。『篝火』は特に奥が深い。

(配点五点)

二位 厩の神 菅 攝子

神棚に立秋の水おどりけり

産土は風までほとけ春の蝶

白魚の散つて遙かや父の文字

花石路や厩に神のありどころ

「花石路や」の切れが一句の内容を大きく広げて佳句。(配点四点)

三位 風の色 松廣 李子

灰色は春色めいてやや憂鬱

「癌ですと人ごとのやう燕くる

太陽は今日も灰色帰り花

掲句の他に「焼きあがる」「風に

聞く」等の句に惹かれた。(三点)

四位 風 御手洗豊海

飯の世を生きて見送る花筏

田を植えて村はひとつの大鏡

## 美しい四季の肉体化 河野 輝暉

一位 厩の神 菅 攝子

先ずこの題が気に入った。私の好きなテーマでもあるから。最近

は成績にタイトルと全作品に渡るレベル

をも評価内の傾向にある。どんなタイトルにするかも作者の

実力である。兜太の晩年に回帰した、産土の土にこそ生活と作句の

基盤がある、という主張を全句に想起した。何しろ全二十句中「神」

の字が五個、仏が二個出現している。「神仏習合」

である。これだから良いというのでは勿論ない。

俳句の決まり事として、誤字、脱

字があると点を引かれる。「生かさ

れて今を生き抜け冬の蝶」は、全体的に力強い表現が魅力的だが、送り

仮名の脱字は残念。(配点二点)

五位 風こち 足立 町子

無花果を食へ直感が鈍くなる

余分だが選を漏れた句の中に「イ

マジンの歌はどこより開戦日」は好

かった。個人的な意見だが、全体的に切字を使っているのは三句しか

ないことに気が付いた。私なりに選をしながら新鮮な俳句にも出会え

たし学ぶことも出来た。(配点一点)

生姜湯や臍に明かりの日本人

麦踏みば雲甘くなる少年期

今年米神の音して袋立つ

花石路や厩に神のありどころ

注目の焦点がオリジナルでありながら日常の存在物を登場させている。

美しい四季が肉体化され、少年期から老齢期を一望している。

最後の句など、糞尿にまで神性を

感じ、神の名、波瀾夜須昆古神(はにやすひこのかみ)まで付けた日本人の文化人類学の一端が成句された

秀作。(配点五点)

二位 風 御手洗豊海

〇印は沢山つけて見た。全体に破綻の無い句群ではある。平易で一句

完結で淡味がある。換言すればやや常識的で、予定調和の句が散見され

るとも見られ、惜しくも二位に。

田を植えて村はひとつの大鏡

だいこ引き腰の曲りにさからわず

今日を生き明日は知らず蝉しぐれ

(配点四点)

三位 残照の舟 田口 辰郎

熟練を経た凝った作品が並んで読み甲斐がある。言うところの現代俳句の傾向が一望できて勉強になる。

それは反省の勉強になる。飽くまで人個人の好みなので、作者の好み

鑑賞者にとつては気になるのだ。ディジャブーが内容に多い。語尾に「する」や口語で終わっている。顕示的で物欲しそである。

先日、子ども俳句界の選をしたが、「蚊にさされムヒの取り合いエブリデー」

との、中一生の句を特選にした。(配点二点)

四位 風の色 松廣 李子

(配点一点)

五位 螺旋階段 えんど久子

(配点一点)



## 意欲的な取り組み

### 上田たかし

応募件数は少なかったが、意欲的な取り組みに敬意を表したい。甲乙つけがたく一位を三組にした。

一位 残照の舟 田口辰郎

二十句の内容に偏りが無い。全ての句に作者の意志が透けて見える。私たち共通のものとして重く受け止めた。

耕して村の扉を開けておく  
朧夜の夜行列車てくる昭和  
晩年は陽炎ばかりついて来る

一句目は、過疎化に苦しむ農村の悲哀。二句目は、昭和をメンヘンチックに描く。三句目は、晩年と陽炎。捉えどころのないもどかしさが綴られている。

紙魚だらけ附箋だらけの原爆史  
合鍵はシリアの月にかけてある

戦争が鍵穴を覗いている聖夜

一転して人間の欲望による悲惨さを如実に示している。平和の警鐘と重く受止めたい。  
(配点四点)

一位 風ごち 足立 町子

読む人の心をうまく捉えている。やさしいことばによる表現だけでなく、句の内面にあるものに惹かれた。次の三句が心に残った。

ふるさとには深い穴です毛糸です

重心が空へ傾く春炬燵  
紫陽花に逢瀬の風がまだ残る

(配点四点)

一位 厠の神 菅 攝子

対象物に対しての視線がよく、共感を呼ぶ。独特の着眼、独特の表現をすでに獲得している。

心に響く句として、

塗りたての空連れ曼珠沙華を歩く  
麦踏みは雲甘くなる少年期  
産土の風までほとけ春の蝶

(配点四点)

四位 風の色 松廣 李子

生きている証を愛情を込めて詠ん

## チャレンジャーの気概を 伊藤 利恵

一位 厠の神 菅 攝子

「厠の神」を一位五点とした。農耕の神と共にある作者の暮らしの細部を静かに美しく表現したこの抄編は、一句一句の完成度の高さにおいて他を圧倒していた。

神棚に立秋の水おどりけり

絹鳴りの天地に若し阿波踊り

亀鳴くやくるぶし乾きゆく墓前

今年米神の音して袋立つ

竹炭の神来て刻を見ていたり

でいる。紡ぐことばは平易だが、内容には共感を呼ぶものがあつた。

いい訳は風に転がり罌粟坊主

楊梅の真夜の会話のてんでん

ねころばみずすの詩が夏の草

(配点二点)

五位 螺旋階段 えんど久子

新しい表現に、意欲的に取り組んでいる。句にも気負いはなく、読む人の心をほぐしていく楽しさがあり好感がもてた。

桔梗揺れきよの私をはぐらかす

厳冬の螺旋階段よりワルツ

駆けつける人を待たずに椿落つ

(配点一点)

河原鶏とろりと鳴かせ農暦

多彩な季語によく研がれた言葉を使い奥行きのある俳句に仕上げている。古くて新しいこれらの句の「作品生命」は永いと思う。

二位 風邪ごち 足立 町子

枇杷の花黙っていたらお茶が出る

重心が空に傾く春炬燵

父の背にかなかなのいる夕間暮れ

など軽いタッチの描写が心地よい。

ただ中心になる突出した作品がない



ことと、加えて作者の女性性に寄り掛かった作品が散見されたことが惜しまれる。季語の使い方を工夫するとさらに句に深みが出るように思う。

風邪心地をを二点四点とした。

三位 螺旋階段 えんど久子

厳冬の螺旋階段よりワルツ

は出色であつた。他に

ここの湯は腰にいいんよ今朝の秋

よかつたらたていかねわらび飯

など話し言葉をうまく取り入れた作品にも好感が持てた。この作者が今後どのような境地を啓いてゆくのを楽しみである。配点は三点。

四位 風の色 松廣 李子

集落は軒下ライオングラブの金糸花

足跡の翳青くして雪兎

に独特の眼を感じた。歴史的仮名遣いに異論はないが、「いる」や「しゃぼん玉」などの表記には疑問が残った。配点二点

五位 残照の舟 田口 辰郎

「残照の舟」を五位一点とした。「ランドセルに平和を語って入学す」他七句を、平成二十年「九州俳句賞」の受賞作品抄よりひいていることを減点要素とした。応募要項の「平成三十年十月から令和元年九月の作品」は、ある程度守るべき基準ではなからうか。またすでに評価の定まった



大分駅前風景

過去の作品を再掲する姿勢は、自らの可能性を放棄しているようにも見える。

応募者（チャレンジャー）の自負は最も大切にするこのひとつであると、自戒も含めそう思う。

「残照の舟」全体に関して言えば、よくまとまっているのだが既視感のある作品が多く独自性に欠けるのが難点である。

## 今日の俳句を模索

成清 正之

応募数は少なかったが、今日の俳句に向き合っている姿勢・熱意がどの作家にも見られて頼もしく思った。三句を同列一位とし、次のように評価させてもらった。

一位 残照の舟 田口 辰郎

春菊の春のころを摘みにゆく

黄昏のころに少しオーデコロン

合鍵はシリアの月にかけてある

重いテーマをやさしい言葉で表現しておりどの句にも味わい深い魅力があり、共感できる親しみを感ずる。独自の手法を高く評価。

（配点四点）

一位 風の色 松廣 李子

いい訳は風に転がり罌粟坊主

母の色いま加はらん葬の虹

太陽は今日も灰色帰り花

春の雲手を差し伸べてくれないか

には静謐な孤独感と読み手を容れる余白とがあり良い作品であった。

この作者にしか書けない境地の作品がきつとあると思う。それを期待している。

今回の選を通じて、六名の俳句作家のさまざまな個性に刺激を受けたことを心よりお礼申し上げたい。

風に聞く怒涛のラグビーかもしれない

リアルな描写で現実と幻想を同居させている。深々とした自己洞察の作品に、量を書いて質を高めた経緯が見える。（配点四点）

一位 風こち 足立 町子

無花果を食へ直感が鈍くなる

いつの世も女は女風こち

桜はらはら甘え上手になっている

## 各位の熱意に敬意

有村 王志

、有村王志選

一位 残照の舟 田口 辰郎

春菊の春のころを摘みにゆく

耕して村の扉を開けておく

ものの芽の悲しいところを切てやる

月光に刺されてからの不眠症

きりぎりす夢の途中を翔びはじむ

新味の不足はあるが、庶民の哀感を素直に詠んでおり、作者の息遣いや体温が作品に感じられる。バランスの取れた平明性を評価。

（配点四点）

四位 風 御手洗豊海

生き死にを言わず荒野のねじり花

今日を生き明日は知らず蟬しぐれ

だいこ引き腰の曲りにさからわず

地味だが平明に書くこうする思いが伝わる。素材をもう少し広げると、新たな展開がみられるのでは。

（配点二点）

五位 廁の神 菅 攝子

かなぶんの夜は美しき家族かな

花石路や厨に神のありどころ

既存の手法から離れ自由な発想で今日のものを捉えているが、その手法は賛否の分かれるところである。（配点一点）

合鍵はシリアの月にかけてある

多彩な素材に裏打ちされて、しっかりとした情感の機能も十分に研ぎ澄まされている。（配点四点）

一位 風こち 足立 町子

枇杷の花黙っていたらお茶が出る



春分の日はぎぎ波になっている  
今日私何たか無敵揚げとまと  
線香花火消えて女の手が残る  
季語の配合が巧みで柔らかな日常  
の確かな情感が味わえる。

〔配点四点〕

三位 厠の神 菅 攝子

花殻を摘めば男の月涼し

麦踏みば雲甘くなる少年期

今年米神の音して袋立つ

白魚の散って遙かや父の文字

独特な言質の獲得 その世界の演

出が力強く魅かれる。〔配点四点〕

四位 螺旋階段 えんど久子

桔梗揺れ今日の私をばぐらかす

厳冬の螺旋階段よりワルツ

駆けつける人を待たずに椿落つ

素材の切り口の獲得が、何げない

日常の素材を蘇らしている

〔配点四点〕

五位 風の色 松廣 李子

灰色は春色めいてやや憂鬱

白桃や眠っていることの飽きたして

風に聞く怒涛ラグビーかもしれぬ

今回は持ち点の関係でやむを得ず

一点とした。やや説明句があり課題、

例えば

「癌です」と人ごとのやう燕来し

「癌です」人ごとのやう燕来し

「と」を外した方が力強い

〔配点一点〕

## 協会創立60周年記念 大分県現代俳句大会



中村和弘 本部長の講演

一面掲載の通り、県協会創立30周年記念の現代俳句大会が開催されました。来賓は大分合同新聞社文化科学部長の安東公綱氏です。

足立攝幹事長の司会で始まった大会は、まず午前中の総会で県協会賞を受賞した菅攝子氏と田口辰郎氏と受賞作品を紹介しました。

続いてあべまさる県協会副会長の開会のことばのあと、有村王志県協会会長のあいさつがありました。

次に、創立30周年を記念し、県協会の運営と発展に特別の功績のあった河野輝暉元会長（現顧問）に感謝状の贈呈が行われました。（14面参照）



その後 中村和弘 本部長の記念講演がありました。

演題は「新興俳句のいま」

新興俳句とは昭和六年から約十年間、反伝統・反「ホトトギス」を旗印に、近代的抒情・感覚の発揚による表現様式の革新と、俳句形式による思想性・社会性の領略とを旨とした俳句近代化運動のことです。もの

### 後援

大分県  
大分市  
大分市教育委員会  
大分合同新聞社  
NHK大分放送局  
OBS大分放送  
TOSテレビ大分  
OAB大分朝日放送

後援していただいた諸団体

ことには否定的要因と発展的要因があります。その発展的要因を現在に受け継いでいるのが現代俳句協会であると中村会長は語りました。現代俳句協会青年部編の『新興俳句アンソロジー 何が新しかったのか』は初版本を売り尽くし、しばらく入手困難でしたが、今では版元のふらんす堂、またはアマゾンなどの通販サイトで買えます。税込二千六百四十円です。

会場には初参加の顔も見られましたが、みんな熱心に聞き入りました。中村本部長の講演のあと、大会は一般募集句の入賞者の発表と講評、表彰を行いました。（次ページ参照）



# 大分県現代俳句協会創立三十周年記念 大分県現代俳句大会入賞作品

## 【中村和弘会長特選句】

鏡餅わかれて始まる高校生（高1）

香川 合田 陸翔

蠅叩き妻が私をじっと見る

九重町 甲斐 素純

小鳥来る原爆ドームを標とし

大分市 田中 充

レタスほど晩年明るいタベかな

竹田市 有村 王志

光る漁村からこゝ無人の深き揺れ

竹田市 有村 王志

雁鳴くや少年の日の耳赤し

大分市 菅 攝子

冬の月探せばふいに輝きぬ

大分市 飯田 幸子

## 【ジュニア大賞】

北風を一直線に受けとめる（中1）

杵築市 高 悠介

## 【ジュニア賞】

青春やポケット叩く冬の雨（高1）

香川 合田 陸翔

ひよの来てソロバンはじく町の雨

（小2） 香川 合田英鈴奈

母不在父が焼いてるおもちかな

（小5） 神奈川 菅 就雅

## 【ジュニア奨励賞】

きなももちだんたんくぐらわおいしな

（4歳） 神奈川 菅 眺真

いいことがふえてよかったお年玉

（小1） 神奈川 菅 宗嗣

## 【大会大賞】※一席

沈黙も言葉なりや寒の鯉

国東市 河野 輝暉

## 【大分県現代俳句大会賞】※席

如月や骨まで反戦兜太逝く

大分市 丘 友子



ジュニア大賞・高 悠介さん（お母さん）

## 【大分県知事賞】※三席

鬼やらい末は独りになる二人

豊後大野市 梶原 千代

## 【大分市長賞】

駆け抜ける春の鼓動のスニーカー

国東市 吾 亦紅

## 【大分市教育長賞】

影にさえ躓きがちや老の冬

国東市 立麻 琴路

## 【大分合同新聞社賞】

人間に近づきすぎて散る桜



大分合同新聞社賞・灘波瑞枝さん

国東市 灘波 瑞枝

【OBS大分放送賞】

ポインセチア 一番似合う服を着る

大分市 神 慶子

【TOSテレビ大分賞】

どの村も冬田剥がしていく途中

豊後大野市 上田たかし

【OAB大分朝日放送賞】

ポケットのコインと歩く春の街

豊後大野市 吉田 素子

【大会特別賞】 (5句)

立話終わらぬ大根畑かな

国東市 岸本千鶴子

クロッカス揺れて十五の死がひとつ

豊後大野市 足立 攝

蠅叩き妻が私をじっと見る

九重町 甲斐 素純

紙飛行機しずかに春を置かれけり

大分市 菅 攝子

小鳥来る原爆ドームを標とし

大分市 田中 充

【秀逸賞】 (7句)

よもぎ餅鼻から抜ける輪廻の香

合田 文美

鶏頭にあたためられている売地

田口 辰郎

湯冷めしてピーターパンに戻れない

瀬川 剛一

寒落暁辺野古の海へ突きささる

谷川 彰啓

老いてなお生きる証しに田を植える

御手洗豊海

手を広げこの黄落の杜を抱く

石橋紀公子

寒の水飲んで余生にさからわず

成清 正之

【優秀賞】 (15句)

父の座の父が構へし蠅叩き

福田 英子

冬山となわとびをして母になり

河野 泉

人日の沖へと駆ける子どもたち

飯田 幸子

でて虫に日々の介護をこぼしけり

高橋 玲子

父を追ひ梅林に影置き忘る

足立 町子

蛇穴を出れば令和に変はりけり

後藤 史子

あなたがたどこそ施設で灯下親しむ

あべまさる

しんとと妻の冬着を抱えおり

加藤 征孝

粉雪の降る村中が童話めく

川野 智子

せかせかと総仕上げする蟬時雨

堤 留美

水仙のペロリと舌を出しそつな

宮崎 山景

柚子南瓜無病息災冬至粥

吉崎 正基

視野にあるうちは信じてゐる鬼火

白水 風子

冬紅葉嘘は生活習慣病

白土 正江

葉桜やいまだ昭和を歩いてる

井上 政人



祝賀会・中村本部長と有村会長

【奨励賞】 (20句)

春つららシニークリムの空洞も

油布 晃

福寿草産声高く令和の子

田代 直之

限界集落女郎蜘蛛のすみかな

有村 王志

振る度にいのちの音す種袋

田中 英俊

目薬に一滴つつの冷気あり

大川 千明

味噌蔵の深き眠りや日脚伸ぶ

菅 勲

とおさんのへのじのかかしすてられた

木村 説子



祝賀会・由布 晃氏の手品





谷川彰啓顧問による万歳三唱

ブルーシート二層青く冴ゆる町  
鎌倉貞由美  
ぷくぷくと泡つく蟹や多喜二の忌  
佐土原孤雁  
毛糸編む子らの未来を紡ぐ  
山本悦子  
潮風を引いて切り干し息をする  
岡野成美  
裸木となりて素直に生きろなり  
西峯峰子  
鳳凰の飛んでいそが初御空  
梅木真知子  
復興へ桜いくたび咲いて散る  
坂本一光  
手際よくボランテアする春の暮  
森山秀子

花筏重きつみ荷のテロと地震  
井元 扇岳  
老心も揺らぐ二月のチヨコレート  
園田 武子

## 河野輝暉顧問に感謝状

創立30周年を記念して河野輝暉氏に感謝状と記念品を贈りました。河野氏は発足当時は幹事として、平成12年からは副会長として、平成20年からは会長として、そして平成24年から現在までは顧問として、協会を実践・理論の両面から支えました。また平成26年までの12年間は大分合同新聞の読者らんで俳句選者を務め、現代俳句の普及に貢献しました。



河野輝暉、則子ご夫妻（ご自宅にて）

冬うつらポストの中も雑談す  
坂本 栄生  
写メールの息子の相手春隣  
欽田 建二

体調の不良で大会に出席できなかったため、3月10日、事務局がご自宅へ感謝状・記念品をお届けしました。

### ●第57回現代俳句全国大会

投句締切7月31日（必着）  
三句一組二千元（何組でも）  
同封の募集要項、投句用紙参照

### ●神話のふろさとみやぎ

全国俳句大会（国民文化祭）  
投句締切6月30日（消印）  
二句一組千円（何口でも）  
同封の投句用紙参照

※日田開催の際は、宮崎のみなさんにお世話になりました

### ●第19回アジサイ祭

当協会の甲斐素純氏が宮司をつとめる宝八幡の主催で、当協会顧問の谷川彰啓氏が選考です。  
アジサイをテーマにした俳句を募集。ハガキに三句。（何枚でも）  
送り先は〒879・4632  
玖珠郡九重町松本 宝八幡宛  
※投句料は無料です

横山康夫氏（中津市）ら  
俳句誌「周」を創刊



これまでの中津句会「円錐を終りし、周を立ち上げた。5月創刊。

小さな会誌ではあるが、拠り所としての存在になれたら嬉しい（横山）  
横山氏ら三人が編集委員。照会中は津市山国町守実2287の9横山氏まで。0979（62）3124

大神愛子氏（豊後大野）  
句集とエッセー集を出版



昨年6月、平成の最後と、自分が母の年を越えたことを記念して、大分合同新聞へ投稿していた俳句とエッセー13年分を

をまとめて、同時出版した。  
薫風が井戸端会議吹きのかす  
亡き姉のホタルになりし別れかな  
甘酒を作る心の出来具合  
爪痕を山河に残し夏がゆく

（編集部抄出）



# 「私と俳句」 大神 愛子



大好きだった母、四才上の姉も他界して三十年と二十七年になります。私が、五十五才の時、主人は六十二才で肺がんで他界しました。母が亡くなった時、父は七十五才で、隠居部屋に一人で住んでいました。幸い徒歩三分のところにいたので、父が九十四才で亡くなるまで、世話が出来たのが、心の救いでした。その父も他界して十二年の歳月が過ぎました。主人亡き後、四才とゼロ才の孫娘の世話に忙しい日々が過

ぎ、もうすぐ還暦がくると考えていた時、近所の友達が「愛子ちゃんも合同新聞の文芸コーナーに投句したら」と教えてくれたのです。

一月に初めての投句  
還暦を迎えし春が足元に

をポストにいれました。二ヶ月後の三月に初めての句が載って、私の名前を見つけた時の感動は、今でも忘れる事が出来ません。あれから今年で十四年目になりました。

文芸コーナーの河野輝暉先生とはお会いした事もないですが、河野先生のおきそいで、県の現代俳句協会に加入しました。私は車の運転も出来ず、バスに乗るとすぐ酔うし、当時二人の孫の世話に明け暮れ、家事をこなすのが精一杯でした。それでも一度も欠かす事なく文芸コーナーの投句は今に至っています。

県の現代俳句協会に初めて投句した平成二十四年五月一日第九十五号に目を通すと、

佐藤綾子先生が、特選で選んで下さり評の言葉も添えてくださっていました。また同じ句で宮川三保子先生が、入選で採って下さり心が舞い上がる程でした。その句は、

棚田には幾何学模様の苗植えし

でした。県協会の行事には参加する事も出来ず、幼稚な句しか作れず、お恥かしいのですが、投句する事が唯一の生き甲斐です。

十三年前右ヒザの半月板損傷で人工関節の手術をして、今は左ヒザも悪くて、遠出も出来ずに申し訳なく思っております。

県協会に入会したおかげで、広島平和大会と全国俳句大会の案内状もいただき、どちらも投句をしています。第50回現代俳句全国大会では最高賞に河野輝暉先生が選ばれていました。「雑煮食うも骨をひろうも箸の国」なるほどすごいと感動しました。母、姉、主人のお骨を拾う光景が、目に焼きついていきます。

そして正月に雑煮を食うも箸の国、日本人の心がそのまま伝わってきました。県の協会と、合同新聞の文芸コーナーに投句して、河野先生が辞められた後、谷川彰啓先生にもお世話になっていきます。谷川先生にもお会いした事ありませんが、この素

人の私が、趣味で始めた自己流俳句に目を通していただく事だけでも光栄な事です。ましてや自分の名前を見つけた時は、またがんばろうと思っています。

最近私は、平成三十一年四月までの三百七句を収録した、念願の句集を出版しました。この句集ができたのは、いつも励まして下さる知人、恩師、たくさんの方々「愛子ちゃん出ていたね、見ているよ、またがんばって出してね」の有り難い励ましがあつたからです。

会長の有村先生、事務局の足立さんにも、近くに住んでいるにもかかわらず、お会いする事も出来ず、申し訳ありません。今後ともよろしくお願い致します。

俳句を通して思う事は、俳句は私の心の鏡だということ。十七文字にその時々私の心が込められていると思います。

私は三月で七十三才になり、母の年令を越しました。心の中では亡き人もいっしょに年を重ねています。私が出来の間は、事務局の足立さんにはお世話をおかけしますが、頑張っ

て俳句に取り組みたいと思います。  
ウグイスの鳴き声真似て平和なり

## 《新会員紹介》

佐々木 玉(別府)

金縷梅の花引力に操らる

岡野 成美(国東)

潮風を引いて切り干し息をする

大村 和代(国東)

耳元に鈴の音一つ秋の暮

福田 英子(国東)

玉葱や専業主婦にまるをする

岸本千鶴子(国東)

立話終わらぬ大根畑かな

秋国 則子(国東)

北風を小脇にかかえ両子路へ

## 句会探訪 ⑦

### 大分市 津留句会

津留句会の誕生はつい先日、四月十八日、できたてほやほやの句会です。かねて県現俳協の足立攝幹事長から「句会を作りましたか」と言われていました。そこで地元で俳句の好きな友人に呼びかけて、五人で結成し、五月には二人増えて、現在は七人で活動しています。初心者が多く講師は足立攝さんをお願いし、俳句の基本から学んでいます。毎月の例会は第四土曜日、午後一時半から四時まで。その

週の水曜日に一人三句を提出。次の句会までに印刷物にして、当日の勉強会で意見を交わします。俳句が添削され生き生きとよみがえると感嘆の声が上がったり「それは私の意図したのとは違う」「いえ、その意図が間違っています。ものを説明したのだめ」などと、賑やかにそしてシビアに意見交換をします。



会場は、今はコロナの関係で公民館が使えず、今津留の喫茶「タピエス」で五百円の珈琲が会場費を兼ねています。「俳句に慣れてきたら、吟行にも行きましょう」という提案がでたら、わーっと歓声が起こりました。俳句は楽しいねとみんなわくわくしています。

高木 礼子(国東)

バロックの通奏低音春の月

立麻 琴路(国東)

影にさへ蹟きがちや老の冬

井上 政人(国東)

葉桜やいまだ昭和を歩いてる

堤 留美(国東)

せかせかと総仕上げする蟬時雨

早澤まり子(大分)

母の忌のははの愛した石路の花

大森 浩司(国東) 再入会

母の味妻に継がれて大根干す

嶋末 洋子(大分)

青海苔を探してナビの知らぬ町

### 《逝去謹悼》

角倉 洋子 氏

2月14日逝去(享年91歳)

原 けいこ 氏

令和元年11月1日逝去(享年89歳)

### 《退会》

春藤富士子 氏 (2月20日)

### 《発展基金寄付※感謝します》

灘波 瑞枝 氏 二口

(一口千円です。受付中)

## 第2回雑詠句会作品募集

◇当季雑詠3句を、ハガキ、FAX、メール等でお送りください。

◇締切は6月20日(土) 消印有効

◇宛先は事務局まで

◇同封の第1回雑詠句会の選句用紙を使ってもOKです。

令和二年五月二五日発行

会報第百十九号

発行人・有村 王志

発行所・大分県現代俳句協会

編集人・足立 攝



## 大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

### 《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436

足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL: <http://gendaihaiku.net>

E-Mail: [info@gendaihaiku.net](mailto:info@gendaihaiku.net)